

令和3年度 学力向上推進計画

「書く力」「読む力・読み取る力」の育成を軸とする学力向上の取組

亀山市立亀山東小学校

I めざす子ども像

「やさしく かしく たくましく」

- ①自ら進んで思いを伝えあい、楽しく学習に取り組む子
- ②心豊かで思いやりの心を持つ子
- ③心身ともにたくましく、仲間とともに元気に活動する子

II 子どもたちの学力や学習・生活の状況等

<学力に関して>

R3年度全国学力学習状況調査：正答率%（全国）

小6 国 69.3 (64.7)、算数 71.8 (70.2)

R3年度みえスタ：正答率%（県平均）

小5 国 79.4(60.8)、算 72.2(57.0)

理 51.6(50.9)

小4 国 60.9(56.8)、算 55.4(59.0)

本年度実施された上記の調査結果からは、これまで結果分析を共有し、全学年で系統的に経年課題に取り組んできた成果が感じられる。

SP表を活用して、個人の弱みに対応できる指導と、4分位表のC層をB層へ移行させる授業を研究することで、更なる授業改善と学力向上を図る。

★分析からわかった”改善課題となる力“

国語・説明文を読み、文章全体の構成を捉える。

・目的に応じて中心となる語や文を見付け要約したり、文章と図を結び付けるなどして必要な情報を見付けたりする。

算数・複数のグラフを関連付けて読み取る力

・問われている内容を算数的に正確に読み取る

・“被除数が除数よりも小さい割り算

※IIに関しては、別紙「令和3年度全国学力学習状況調査結果の報告～亀山東小学校の児童の学習と生活の状況～」に、詳細を記載

<学習・生活の状況に関して>

R3「全国学調」「質問紙調査」より

【授業や指導の状況に関して】

・「国語・算数・英語の授業」に関する問いでは、国、算の授業内容がよくわかるとの回答が、全国同程度となっている。英語が好きとの回答割合は6割弱で、全国平均を9ポイント下回り、改善が必要。

・主体的・対話的・深い学びへの改善指標となる「自分で考え自分で取り組む」「発表の組立や表現を工夫」「話し合い活動で考えを広げる」などは、全国を大きく上回っており、授業活動の改善を評価できる。

【生活の状況に関して】

・「地域の行事に参加」「地域を考え何をすべきか」は全国平均をそれぞれ10%、20%上回っている。コロナ禍においても、地域の協力で地域に根差した学習を進めることができた。また、本年度研究テーマに据えた”総合的な学習”も「総合では自分で課題に取り組む」の回答が80%を上回り、前回調査から30%の向上が見られた。地域関連学習との相関と認められる。

・生活習慣に関しては、全国よりも起床・就寝時刻ともに定まっていないとする児童の割合が多い。

・ゲームやテレビ視聴時間が長いことが課題である。

・家庭学習時間は全国より長く、読書時間が短い。

III 指導改善のための計画（ポイント）

<学力に関して>

・学習内容の理解定着を進め、基礎基本の向上を目指す効果的な補充学習の実施

・「聞いて（考えて）話す、読んで（考えて）書く」ことで、聞く・話す・読む・書くの言語の4機能を鍛錬する。

・学習の基盤となる3能力の系統的な指導と評価対象、評価規準

★主体的な学びをテーマとした授業改善

主体的に取り組める課題の設定、対話を通して学びを深める活動、考えを深める書く活動、単元を通したふり返りの実施と充実

<学習・生活の状況に関して>

・安心して学び合える学級づくり

・読書機会の増加

・生活習慣の向上と家庭学習時間の増加

・補充学習機会の設定

・学校全体での活用力をつける学びへの取組

・Q U他、診断検査等の実施と学級経営に関する研修

★自己有用感を高める学級づくり

全国学力学習状況調査の質問項目にある“生きる力”を育む5つの関連項目

「自分に良い所あり」「将来の夢・希望あり」「学校に行くのが楽しい」「いじめは絶対にだめ」「道徳で自分の考えを深めている」とQ U調査等を関連付け、さらなる結果の向上を指標として学級経営の充実を図る。

IV 具体的な取組

<確かな学力を身につける授業の改善>

みえスタや学力調査の結果分析と課題共有

★R3 全国学力学習状況調査から掴んだ課題への取組

＊Ⅱ〈学力に関して〉に記載した課題、国語を例に

国語

・低学年では、“文章の内容の大体を捉え、文章の中の重要な語や文を選び出す”・中学年では、“目的を意識し、中心となる語や文を見付け要約する”・高学年では、“目的に応じて、文章と図表などを結び付け、必要な情報を見付け、論の進め方について考えたりする” 以上のような力が身に付くよう各学年の授業内容を改善し、過去問題等で成果を検証する。

授業改善

★“主体的な学び”をテーマに授業改善を図る。

- ア、児童が「わかった、おもしろい」授業
- イ、解決への見通しを持ち、粘り強く取り組む授業
- ウ、周りと共に考え合い豊かな発想を生む授業
- エ、自分の学びをふり返ることができる授業

★個別最適化した学習課題の提供

- ・SP表や4分位表から個人と集団のポイント把握
- ・東書データベースや学Vivaセットの全校活用
- ・ICTコンテンツ利用の系統化（亀山東小版）

安心して学び合える集団づくり

・QUや仲間づくりアンケートを活用し、児童理解や学級づくりに関する取組を進める。

<組織的に取り組む学校体制の確立>

★家庭学習の取り組み方や自主学習の進め方について検討し、実施する。

★補充学習の日を設定、基礎基本の定着を図る。

・子どものつまづきを把握し、個に応じた学習の支援を行う。

・実践的なOJT研修を学校全体で進める。

・明確なめあての設定と、学びの定着を意識したふり返りを行う。

・子どもが、学びの深まりや学びによる自らの変容がわかるように、具体的なふり返りの視点を設定する。

・亀山東小の授業（学び）スタイルを徹底する。板書の仕方、ノートの書き方、授業規律など全体で確認する機会を持つ。

・非メタ認知分野の指導実践研究（学級経営の手法を確立）

・落ち着いて学習できる学級づくりを行う。「見つめる子」を職員全体で把握し、中心とした学級経営を行う。

・指導に関する内容は検証する。定数量両面からの評価活動で実践について結果を理論づけし、再現性を担保し共有する。

<指導力を高める研修の推進>

・主体的な学びを図るための研修を推進する。
研究領域を”生活・総合的な学習“に定め、教科横断的で探究的な学習活動を創造し、課題設定や情報活用力の育成を図る。

・探究的な学習活動を軸とした授業研究
課題設定、情報収集、整理分析、まとめ・発表の流れを押さえた授業づくり

・対話を中心とした国語科の授業づくり
・安心して学び合える集団づくり 人権教育の推進
＝児童の「自己有用感」を育てる学級経営

・みえスタ・学習生活に関するアンケート、全国学調問題の結果分析と課題の共有＝結果検証により共通指導事項の徹底を図り、経年課題の克服へ

・市教委作成「国語確認テスト」の活用研究

・評価活動の研究

・ICT活用の促進、オンライン配信授業の研究推進、ICTコンテンツを活用した個別最適な学習課題の提供

<家庭・地域との連携の強化>

家庭との連携

・みえスタ・学習生活アンケートから把握した課題を家庭と共有する。家庭学習の手引きを配付し、「いえ学」の充実を図る。

・読書週間の向上を図るために、PTA活動との連携のもとに「親子読書チャレンジ」に取り組む。
・ICT活用による、授業参観や親子授業を検討する。

・早寝早起き朝ごはんの徹底、TVやゲーム視聴時間の削減、ICT活用に伴うリテラシーやSNS等利用についての家庭における約束の徹底など。

地域との連携

・地域の人、もの、ことを活用した学習を導入充実する。

・地域をフィールドとした学習による体験活動の充実やキャリア教育の推進を図り、学びの意欲向上へ。

・学校運営協議会による教育活動への参画と協働を計画化し成果指標を設定する。

・「総合的な学習」を継続して研究テーマとし、”地域に根ざした教育“と教育の主体者を学校から地域、保護者、その他へ広げること注力する。